



◆自動試料燃焼装置を用いたイオンクロマトグラフ分析

【概要】

少量のサンプルを電気炉内に入れ、加湿アルゴン雰囲気中で熱分解後、酸素雰囲気中で燃焼することにより、目的成分の回収率が向上し、分析精度が格段に上がります。

【測定項目】

フッ素(F)、塩素(Cl)、臭素(Br)、ヨウ素(I)、硫黄(S)

【対応試料】

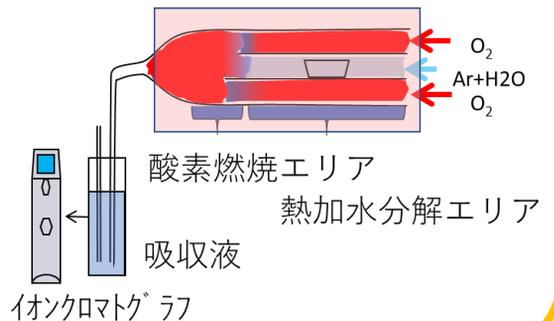
固体（樹脂、廃棄物、紙、土壌等）、液体（水、有機溶剤、オイル）

【測定機器】



イオンクロマトグラフ 吸収ユニット 電気炉 サンプルフィーダー

石英管燃焼法



【測定事例】

ポリエチレン標準試料ERM-EC680k(IRMM標準試料) の分析

	測定値 (μg/g)		標準試料含有量 (μg/g)	回収率 (%)
	n=2	平均値		
塩素	101.0 99.9	100.5	102.2	98
硫黄	76.2 74.8	75.5	76.0	99
臭素	96.5 96.0	96.3	96.0	100

回収率はほぼ100%

